

「手作りの鉛筆入れと年賀状（う）」→ 宇和島の思い出

私は、幼稚園に通っていた4、5歳の頃（今から50年ほど前）のたった2年間ほどでしたが、愛媛県の宇和島というところに住んでいました。まだ幼かったのですが、不思議とその頃のことをよく思い出します。宇和島市は、南予と呼ばれている愛媛県の南のはずれにある小さな城下町です。瀬戸内海の南にある宇和海に面しており、県庁所在地の松山市から80kmも離れた不便なところ。町の中心には宇和島城があり、その周りには小さな平地がありますが、すぐに山に囲まれ、坂道の多いこじんまりとした田舎町です。当時の住まいは、宇和島の総鎮守である宇和津彦神社の近くにある木造の借家でした。近くの坂道で勢い余って自転車で転んだときの手の平の傷はいまでもしっかり残っています。

宇和島の思い出といえば、なんといっても宇和島城です。80mほどの小高い山の上にポツンと小さな天守閣が載っている、なんとも貧相な佇まいです。天守閣は、我が国の現存12天守の一つで、重要文化財です。宇和島市内であればどこからでも眺めることができます。この天守閣を初めて見たとき、なんて小さなお城なんだと、幼い頃の思い出があります。小さな町にふさわしい小さなお城といったところですが、家族にとってはよい散歩コースでした。城山の頂からは、複雑に入り込んだ半島と小島に囲まれた穏やかな西方の宇和海を一望でき、夕日が美しく映えます。築城の名手・藤堂高虎によりますが、その後、伊達藩から伊達政宗の長男が遠方はるばる城主として入封し、明治まで続きます。伊達のお殿様もこんな僻地に來なければならぬ運命をさぞお嘆きになったことでしょう。仙台とは大違いです。



そして、もう一つの思い出といえば、和霊神社です。他県のかたはほとんどご存じないでしょう。宇和津彦神

社の方が格式高いのですが、それよりも荘厳な社殿を有する神社です。また、ここの鳥居は我が国の現存の石



造のものとしては最大だそうです。そして、和霊神社といえば、和霊大祭です。「牛鬼祭り」があります。牛鬼は古くから伝わる人を襲う妖怪の一つですが、牛鬼祭りの牛鬼は、全長5～6mの山車で、鬼の顔と長い首、そして赤い布やシュロで覆われた牛の胴体を持っています。子供ごころに、不気味で気持ちの悪いお祭りと思っていました。山車といえば、祇園祭やだんじり祭が有名ですね。また、和霊大祭では全国的に知られている闘牛も行われ、宇和島最大の華やかなお祭りとなります。

この和霊神社の「霊」とは、伊達政宗家臣で宇和島藩初代家老の山家清兵衛の霊をいい、この神社の主祭神はこの家老で、「和霊様」と宇和島では呼ばれています。なんと宇和島藩家老を祀る神社が宇和島最大の神社となります。山家氏は、入封したばかりの貧しい宇和島藩のために厳しい財政を敷くのですが、これが放蕩藩主の恨みを買って一家惨殺という悲劇を生みます（和霊騒動）。この霊を鎮めるために和霊神社が建立されます。そして、和霊大祭が藩主の元で開催されるようになります。

先日、半世紀ぶりに宇和島に母と出かけ、ゆっくりと市内を見学しました。住んでいた借家はありがたくそのまま残っていました。しかし、幼い頃に賑わっていた商店街はシャッター街となり、町はひっそりと寂れているのが顕著にわかりました。いまこのような町は多く増えているようです。美しい海と歴史ある城下町、宇和島。四国の片隅にある小さな町ですが、いつかまたお城や神社とともに賑わう日がくることを願わずにはられません。

（理事 渡部嗣道）

🌀 次回のタイトルは、「て」から始まることばです。